

<報道発表資料>
(経済同時)

令和7年6月23日
京都国際マンガミュージアム広報担当
京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

京都国際マンガミュージアムイベント
おとな妖怪教室 「ドロドロ、デンデデン-死んだ女を愛する男たち-」
の開催

京都国際マンガミュージアムでは、毎年夏に「こども妖怪教室」と題して荒俣宏館長による妖怪にまつわる話やワークショップが楽しめるイベントを開催してきました。

今回は趣向を変え、純愛をテーマにした「おとな妖怪教室」を下記のとおり、2部構成で開催します。

第1部では、荒俣宏館長と堤邦彦氏（京都精華大学名誉教授）によるトークショー、第2部では、怪談朗読団体「百物語の館」による怪談朗読が行われます。

<概要>

- 日時 令和7年8月23日（土）午後1時～3時10分
- 場所 京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール
(〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上る)
- 内容 <第1部> 午後1時～2時30分 (90分)
トークショー「ドロドロ、デンデデン-死んだ女を愛する男たち-」
出演：荒俣宏（京都国際マンガミュージアム館長）
堤邦彦（京都精華大学名誉教授）
<司会> 應矢泰紀（京都国際マンガミュージアム学芸室員）
内容：死は誰にも避けることはできません。しかし死者の世界があり、その死者ともしまた会うことができたなら？今回は生きている我々と死者との怪談や死後婚の風習などについて語ります。

<第2部> 午後2時40分～3時10分 (30分)

怪談朗読「百物語」

出演：高杉詩香、亀山笑子（怪談朗読団体「百物語の館」）

演目：「牡丹灯籠」

「湖を渡る女」

内容：第1部のテーマにちなんでお化けとの恋愛にまつわる、恐怖で血も凍る恐ろしい怪談を江戸時代に流行した百物語の形式を再現して、お届けします。



京都市
CITY OF KYOTO



京都国際マンガミュージアム
KYOTO INTERNATIONAL MANGA MUSEUM

- 参加費 無料（ただし、ミュージアム入館料〔大人 1,200 円、中高生 400 円、小学生 200 円〕は別途必要）
- 参加対象 高校生以上
※本イベントでは、トークの内容に一部、性的な表現を含む場合がございます。御参加される方は、あらかじめ御了承のうえ、お越してください。
- 定員 100 名（先着順）
- 参加方法 事前申込制、先着順
京都国際マンガミュージアム HP の申し込みフォームより必要事項を入力
のうえ、お申込みください。
※申込受付は、当日の午後 1 時までとなります。
※定員になり次第受付終了（キャンセルが出た場合は申込が可能となり
ます。ただし、キャンセル待ちのリクエストは受け付けておりません）。
- 主催 京都国際マンガミュージアム

<お問合せ先>

京都国際マンガミュージアム

電話：075-254-7414

<参考>

荒俣宏（あらまた・ひろし）

作家。1947年東京生まれ。慶応大学卒業後、10年間のサラリーマン生活ののち独立。

百科事典の編集助手をしながら書いた小説『帝都物語』がベストセラーになり日本 SF 大賞受賞。『世界大博物図鑑』で、サントリー学芸賞受賞。神秘学、博物学、風水等多分野にわたり精力的に執筆活動を続け、その著書、訳書は350冊あまり。

妖怪研究者としても有名である。子どもの頃は貸本マンガに夢中になり、マンガ家を目指し漫画賞に応募したこともある。

近著に『日本まんが1巻～3巻』（東海大学出版）など。2017年4月より京都国際マンガミュージアム館長。



堤邦彦（つつみ・くにひこ）

京都精華大学名誉教授。

1953年東京生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科修了、文学博士。江戸時代の怪談研究を中心に仏教、民俗と怪異の関わりを追い求める。著書に『江戸の怪異譚』、『女人蛇体～偏愛の江戸怪談史』、『江戸の高僧伝説』、『現代語で読む江戸怪談傑作選』、『京都怪談巡礼』、『日本幽霊画紀行』など。

大学教員のかたわら、2015年より怪談朗読団体「百物語の館」の元締めとして各地の神社仏閣において古典怪談を読む会を主宰し、怪談文化の普及を目指す。京都の異界名所を歩く動画「怪談目線」をYouTubeにて配信・公開中。



怪談朗読団体 〈百物語の館〉

〈百物語の館〉は、伝統的な妖しの夜語りの姿を追い求め、2011年に京都精華大生を中心に発足した団体です。江戸怪談の研究と実践を旗印に300年ほど前の作品を翻案し、オリジナル台本を手にして京都の寺社を中心とする公演活動を行っています。



【提供可能画像】

本イベント紹介にのみ使用可能な広報画像です。使用希望の際は、必要素材をお申し出いただきましたらメールでお送りいたします。



メインビジュアル



参考画像 1

「女人、死後、男を棺の内へ引込みころす事」(『奇異雑談集』より)
死んだ女が男に会いに来ている様子



参考画像 2

「妬て殺せし女 主の女房をとり殺す事」(『因果物語』より)
逆さに埋められた女の怨霊が夫に会いに行く様子